

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

( 冬期・一般選抜 ) 問題

専門科目           行動科学           専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成

績

2024 年度

大学院文学研究科博士課程前期 2 年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 ( 行動科学 専攻分野)

注意) 解答の順序は自由であるが、どの問題の解答であるかが分かるように、問題番号を間違いなく記入すること。

問題 1-1.

A と B という 2 人の個人がおり、一緒に遊びに行く計画を立てている。A は野球観戦、B は映画鑑賞を好んでおり、これら 2 つの戦略の組み合わせからなる利得行列は下記のように示される。

		B	
		野球観戦	映画鑑賞
A	野球観戦	(3, 2)	(1, 1)
	映画鑑賞	(0, 0)	(2, 3)

- (1) 純粋戦略ナッシュ均衡を求めよ。導出過程についても述べること。
- (2) 混合戦略ナッシュ均衡を求めよ。導出過程についても述べること。

問題 1-2.

ある大学入学試験において、受験者が文系と理系に分かれているとする。全体に占める文系受験者の割合は 0.4 で、合格率は文系受験者が 0.5、理系受験者が 0.4 であった。

- (1) この大学全体の合格率を求めよ。
- (2) この大学の合格者の中から無作為に選んだ 1 人が文系受験者である確率を求めよ。

(次頁に続く)

---

問題2. 下の表は、日本版総合的社会調査の2006年度のデータ(JGSS-2006)を用いて、排外意識の規定要因を分析したものである。分析はマルチレベルモデルで行われ、集団レベルの変数は都道府県別で集計されている。従属変数である排外意識は外国人住民の増加への拒否を表している。表中の「分断労働市場」の値は大きいほど、外国籍労働者が日本国籍労働者に比べて、より低技能職につきやすいことを表している。表をもとに、以下の問いに答えよ。

著作権の都合上、この部分をご覧いただけません。

出典：永吉希久子，2012，「日本人の排外意識に対する分断労働市場の影響——JGSS-2006の分析から」『社会学評論』63(1): 19-35.

- (1) マルチレベルモデルの意味について、簡潔に説明しなさい。
- (2) 表中の職業は、基準カテゴリであるマニュアルの場合に対する、他の職業の場合の係数を示している。この結果から、職業と排外意識の関係についてのどのようなことが言えるか、想定されるメカニズムを挙げながら論じなさい。
- (3) 「外国籍割合」という変数は統計的に有意である。この結果に対して、どのような解釈が可能か論じなさい。
- (4) モデル2と比べて、モデル3において、「外国籍内訳韓国・朝鮮籍割合」の係数は-1.278から-0.606まで小さくなり、統計的にも有意でなくなっている。この結果に対して、どのような解釈が可能か論じなさい。

(次頁に続く)

---

---

問題3. 次の語句について、1語句につき100字程度で簡潔に説明せよ。

- ①マルコフモデル ②一般化線形モデル

問題4. 以下の英文を読み、問いに答えなさい。

- (1) 下線部 (a) を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部 (b) の二つの貢献とは何か、本文に即して日本語で説明しなさい。

著作権の都合上、この部分をご覧いただけません。







